22024 年 3 月 16 日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構　外国人児童生徒教育推進ユニット（ユニット C）
文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業

高等学校・地域における日本語指導・支援に関するヒアリング

都立飛鳥高等学校

報告者　紺野敦志（主任教諭）

1 学校・団体の概要

学校・団体名	都立飛鳥高等学校
制度上の特徴	学校の場合 課程（　定時制課程　） 学科（　普通科　） 単位履修制度　（　必履修科目を含む 74 単位履修で卒業　）
	団体の場合 主な事業内容 （　） 規模（所属スタッフ人数など） （　）
住所	114-0002
代表・連絡先	堀江　敏彦　03-3913-5071
ウェブサイト等	https://www.metro.ed.jp/asuka-he/

2 指導・支援対象の生徒について

(1) 人数　約 50-70 名
(2) 言語文化背景　中国・ネパールが大半、ほかフィリピン、バングラディッシュ、ベトナムなど
(3) 滞日期間　入学時に半年から 5 年ほどの滞在履歴（それぞれに滞在の差がある。）
(4) 来日理由（在留資格も含めて）
　親の仕事の関係で来る。多くが家族滞在ビザ

3 指導・支援体制について

(1)　外国人生徒等の教育／支援に携わっている方の指導・支援内容・立場・人数
(2)　組織内・外の指導・支援の仕組み・組織

1 年生
学校設定科目日本語Ⅰ（毎週二コマ・2 展開の習熟度）

国語の取り出し授業（毎週 4 コマ・それぞれの生徒に合わしてプリント学習が中心）

主に２年生　学校設定科目日本語Ⅱ（毎週二コマ・2 講座（そのうち 1 講座は 2 展開の習熟度）

主に３年生　学校設定科目日本語Ⅲ（毎週二コマ・2 講座（そのうち 1 講座は 2 展開の習熟度）

本校の教員が担当（日本語能力試験合格者および過去に指導の経験あり）
日本語指導支援員　２名
明海大学の学生（日本語教育専攻・高大連携により毎年実習生として受け入れ）

4 ご報告くださる取り組みについて

(1)　目的

22024年3月16日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構　外国人児童生徒教育推進ユニット（ユニットC）

文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制の充実に関する調査研究」事業

A個人タブレットを活用して日本語の指導を行う。

B教科につながる日本語指導の実践

(2)　取り組み　実施期間、内容、

A個人タブレットを活用して日本語の指導を行う。

① Microsoftソフト Formsを使った小テストの実地
前の週で学んだ単元の練習問題から出題（知識を見ることと、復習させることへの指導）

② Kahootを使用した漢字の学習
日本語能力試験の漢字の学習をKahootというネット上のソフトを利用して早押しクイズ大会形式で学習

③ 学習アプリ「クラススタディ」を使用した日本語の学習
日常生活に密着した言葉や表現方法を「クラススタディ」というアプリケーションを利用して学習

B普通教科につながる日本語指導の実践

① 日本語の授業での他の教科につながる学習の取り組み
（他の教科で学んだことのプレゼンテーション）

② 普通教科での日本語の指導が必要な生徒への配慮
（板書でのルビ振り・翻訳ソフトの活用）

(3) 成果と課題

成果

「日本語」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」それぞれに2展開の習熟度のコースが設置されているため、日本語がほとんど話せない生徒からN3合格レベルの生徒までそれぞれのレベルに合わせて3年間（もしくは4年間）にわたって日本語を指導する体制ができつつある。

課題

【本校の生徒の現状としての課題】

① N検を合格するためには本来持っている能力に合わせて試験勉強が必要となるが、試験勉強を真面目に取り組む生徒が多くはないため、あと一歩の点数で不合格になってしまう生徒が多い。特に読解のパートが低い。来年度は、N検の問題演習を授業にも取り込み、読解力を伸ばすことを目標としたい。

② 最初は2展開の習熟度で指導しているが、指導していくうちに生徒のレベルが大きく三つに分かれてくる（最初は全く話せず、さらに日本語の定着がとても遅い生徒・　最初は全く話せないが着実に話せるようになっていく生徒、入学時からある程度のレベル（N3-4）の生徒)、そうなると日本語指導員の数と予算に限りが出てくる。

③ 高校での日本語の指導の最終的なゴールは、授業が分かる日本語能力の育成及び卒業後の進路につながる日本語の指導になる。

④ 現在は専任の教員が日本語の授業を教えているので、生徒一人ひとりのレベルがわかり、指導の方針も立てやすいが、日本語の指導をしている専任の教員が異動するとそのような人材がいなくなる。日本語支援コーディネーターも日本語指導の経験がないと生徒のレベル等を把握するのが難しい。